

彙報

会長 影山太郎

——常任委員会——

2010年度第2回常任委員会

日時：2010年11月3日(水・祝)11:00～16:30

場所：東京大学日本語教育センター

出席者：影山太郎(会長)、井上 優(事務局長)、荻野綱男、菊地康人、郡司隆男、田野村忠温、長谷川信子、早津恵美子、吉田和彦(以上常任委員)

オブザーバー：窪菌晴夫(編集委員長)、小野尚之(大会運営委員長)、坂本 勉(広報委員長)、三原健一(夏期講座委員長)、高田智和、千葉庄寿(以上事務局委員)

[報告事項]

- (1) 前回評議員会以降の主な活動について
 - ・2010年度第1回評議員会(2010年6月19日)以降の主な活動(恒常的業務を除く)が報告された。
- (2) 組織・役員・任期について
 - ・2010年11月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。
- (3) 2011年以降の大会について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第142回大会(2011年春季大会)：2011年6月18日(土)～19日(日)、日本大学文理学部キャンパス(大会実行委員長：荻野綱男氏)
 - 第143回大会(2011年秋季大会)：2011年11月26日(土)～27日(日)、大阪大学豊中キャンパス(大会実行委員長：上田功氏)
 - 第144回大会(2012年春季大会)：2012年6月(予定)、東京外国語大学(大会実行委員長：未定)
 - 第145回大会(2012年秋季大会)：2012年11月(予定)、九州大学箱崎キャンパス(大会実行委員長：久保智之氏)

(4) 各委員会報告

- ・編集委員長より平成22年度上半期の投稿状況、138号(平成22年9月)の刊行、139号(平成23年3月：特集「コーパスを活用した言語研究(2)」)の編集スケジュールが報告された。
- ・大会運営委員会、広報委員会、夏期講座委員会については本彙報の各委員会の項目参照。

(5) 言語系学会連合、シンポジウム「日本語の将来」について

- ・以下のことが報告された。①11月1日現在の言語系学会連合の加盟団体は33団体である。②日本学術会議と言語系学会連合の共催によりシンポジウム「日本語の将来」が開催され(9月19日(日)、日本学術会議講堂)、200名以上の参加者があった。

(6) Journal@rchive について

- ・以下のことが報告された。①Journal@rchive(科学技術振興機構、JST)にて公開中の『言語研究』既刊(100～128号)の問題点について、会長・事務局局長が直接JSTに申し入れを行った。②『言語研究』既刊号の公開のためにオンライン版ISSNを新たに取得した。

[審議事項]

(1) 委員の交代について

- ・以下のことを承認した。①坂本勉氏を広報委員長とする(2010.9.1～)。②長谷部洋一郎氏、酒井弘氏、江口正氏を広報委員(半数交代分)とする(2010.9.1～)。③遠藤喜雄氏を次期大会運営委員長とする(2011.1.1～)。④滝浦真人氏、斎藤倫明氏、野村益寛氏、藤代節氏、米田信子氏、玉岡賀津雄氏を次期大会運営委員(半数交代分)とする(2011.1.1～)。

(2) 夏期講座委員長・委員の任期について(会則第19条の改定)

- ・夏期講座委員長の任期を2年1期(期を隔てての再任を妨げない)、委員の任期を2年3期までとすることが提案され、承認された。【別記1参照】

- (3) 外部団体の活動への協力について
 - ・外部団体の活動（国際会議開催等）への協力に関する原則と具体的な協力内容について検討した。
- (4) 学会賞の創設について
 - ・学会賞の創設について検討し、次の基本方針を確認した。①学会賞は若手研究者の支援を主な目的とする。②論文賞と大会発表賞の2本立てとする。
 - ・学会賞創設のための検討小委員会を設置することが承認された。
- (5) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて
 - ・今年度試行の再募集は行わないこと、次年度の会員への一般公募に向けて準備を行うことが承認された。
- (6) 会員名簿について
 - ・冊子体の会員名簿の発行について意見交換を行った。

(以上事務局委員)

[報告事項]

- (1) 第141回大会について
 - ・会長より開催校である東北大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の上原聡氏より挨拶があった。
- (2) 前回評議員会以降の主な活動報告(会長)
 - ・2010年度第1回評議員会(2010年6月19日)以降の主な活動(恒常的業務を除く)が報告された。
- (3) 役員・組織・任期について(会長)
 - ・2010年11月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。
- (4) 2010年度以降の大会について(会長)
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第142回大会(2011年春季大会): 2011年6月18日(土)～19日(日), 日本大学文理学部キャンパス(大会実行委員長: 荻野綱男氏)
 - 第143回大会(2011年秋季大会): 2011年11月26日(土)～27日(日), 大阪大学豊中キャンパス(大会実行委員長: 上田功氏)
 - 第144回大会(2012年春季大会): 2012年6月(予定), 東京外国語大学(大会実行委員長: 未定)
 - 第145回大会(2012年秋季大会): 2012年11月(予定)九州大学箱崎キャンパス(大会実行委員長: 久保智之氏)
 - ・次回大会(142回大会, 日本大学)の荻野綱男大会実行委員長より挨拶があった。
- (5) 各委員会報告(各委員会委員長)
 - ・編集委員長より平成22年度上半期の投稿状況, 138号(平成22年9月)の刊行, 139号(平成23年3月: 特集「コーパスを活用した言語研究(2)」)の編集スケジュールが報告された。
 - ・大会運営委員会, 広報委員会, 夏期講座委員会については本彙報の各委員会の項目参照。
- (6) 言語系学会連合, シンポジウム「日本語の将来」について(会長・事務局長)
 - ・以下のことが報告された。①11月1日

——評議員会——

2010年度第2回評議員会

日 時: 2010年11月27日(土) 10:30～13:00

場 所: 東北大学川内北キャンパス A棟 307教室

出席者: 影山太郎(会長), 青柳 宏, 井上優(事務局長), 上山あゆみ, 江口 正, 大津由紀雄, 荻野綱男, 生越直樹, 風間伸次郎, 梶 茂樹, 加藤重広, 窪菌晴夫(編集委員長), 熊本 裕, 呉人 恵, 郡司隆男, 小泉政利, 後藤 斉, 坂原 茂, 坂本 勉(広報委員長), 佐久間淳一, 佐々木冠, 庄垣内正弘, 杉浦滋子, 砂川有里子, 田野村忠温, 玉岡賀津雄, 角田太作, 西村義樹, 新田哲夫, 野田尚史, 長谷川信子, 早津恵美子, 福井直樹, 藤代 節, 松村一登, 三原健一(夏期講座委員長), 藪 司郎, 吉田和彦(評議員出席者37名)

委任状: 31名

オブザーバー: 井上和子, 国広哲弥(以上顧問), 小野尚之(大会運営委員長), 上原聡(大会実行委員長), 高田智和, 千葉庄寿

現在の言語系学会連合の加盟団体は33団体である。②日本学術会議と言語系学会連合の共催によりシンポジウム「日本語の将来」が開催され(9月19日(日), 日本学術会議講堂), 200名以上の参加者があった。③2011年2月に加盟学会による懇談会が企画されている。

(7) Journal @ rchive について(事務局)

- ・以下のことが報告された。①Journal @ rchive(科学技術振興機構:JST)にて公開されている『言語研究』100～128号の問題点についてJSTと協議の上, 改善を行っている。②『言語研究』1～99号が公開された。100～128号と同様, 問題点について順次改善を行う。③『言語研究』129号以降のアーカイブ化についてはJ-STAGE(JST)の利用を引き続き検討する。

[審議事項]

(1) 委員の交代について

- ・以下のことを承認した。①坂本勉氏を広報委員長とする(2010.9.1～)。②長谷部洋一郎氏, 酒井弘氏, 江口正氏を次期広報委員(半数交代分)とする(2010.9.1～)。③遠藤喜雄氏を次期大会運営委員長とする(2011.1.1～)。④滝浦真人氏, 斎藤倫明氏, 野村益寛氏, 藤代節氏, 米田信子氏, 玉岡賀津雄氏を次期大会運営委員(半数交代分)とする(2011.1.1～)。

(2) 夏期講座2010の決算について

- ・夏期講座2010の決算報告を拍手多数により承認した。

(3) 夏期講座委員長・委員の任期について(会則第19条の改正)

- ・夏期講座委員長の任期を2年1期(期を隔てての再任を妨げない), 委員の任期を2年3期までとすることが提案され, 承認された。【別記1参照】

(4) 外部団体の活動への協力について

- ・外部団体の活動に対する協力について以下のことが承認された。①協力の種類は「共催」(財政的・人的支援), 「協賛」(寄付, 広報協力), 「後援」(後援名義使用許可,

広報協力), 「広報協力」(学会サイトからのリンク)の4種類とする。②協賛の寄付金の上限は常任委員会で検討する。

(5) 学会賞創設準備のための小委員会の設置について

- ・日本言語学会に「日本言語学会の会員, 特に若手研究者の研究活動の支援・活性化」を目的とする2つの賞を設けることが承認された。①日本言語学会『言語研究』優秀論文賞(仮称), ②日本言語学会大会発表賞(仮称)。
- ・学会賞実施のための制度について検討する「学会賞創設準備小委員会」を設置することが承認された(任期:2010年11月27日～2011年6月末日)
- ・会長より小委員会委員として荻野綱男氏(委員長), 窪菌晴夫氏, 小野尚之氏, 長谷川信子氏, 林徹氏が指名された。(2011年度中の実施に向けて検討を行う。)

(6) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考について

- ・評議員を対象とした2010年度試行の再募集は行わないことが報告された。
- ・「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」に関する規程及び募集要項を承認した。【別記2参照】

(7) 会員名簿について

- ・前執行部が行った会員アンケートの結果が紹介され, 冊子体の会員名簿の作成と配布について意見交換を行った。

——大会運営委員会——

2010年度第2回大会運営委員会

日時:9月13日(月)11:00～17:00

場所:東北大学川内北キャンパス

出席者:小野尚之(委員長), 遠藤喜雄, 加藤重広, 小林正人, 三岡英樹, 高野祐二, 時本真吾, 西村義樹, 彭国躍(以上大会運営委員), 上原聡(東北大学:大会実行委員長)

- (1) 学会ウェブページからの発表申し込みを実施した結果が報告された。

- (2) 次期委員について会長と協議の上、委嘱を行ったことが報告された。(斎藤倫明氏、滝浦真人氏、玉岡賀津雄氏、野村益寛氏、藤代節氏、米田信子氏)
- (3) 141回大会の応募要旨の審査をおこない、口頭発表55件(応募93件、受理92件)、ポスター発表2件(応募2件)、ワークショップ2件(応募2件)を採択した。プログラム(7会場)の編成と司会者の人選をおこなった。
- (4) 141回大会(東北大学)について上原聡大会実行委員長と打ち合わせを行った。

——広報委員会——

学会ホームページ

- ・英文ホームページ公開のための準備作業を行った。
- ・大会運営委員会との連携により、第141回大会からWebページからの応募受付を開始した。実施の際の問題点を整理し、改善を図っている。

——夏期講座委員会——

夏期講座 2010

- ・夏期講座 2010 を実施した
- 期間：2010年8月23日(月)～28日(土)
- 会場：北海道大学(実行委員長 加藤重広氏)
- 参加者：一般63名、学生106名

夏期講座 2012

- ・東京大学(本郷キャンパス)にて開催の予定(実行委員長 西村義樹氏)。

——事務局——

- ・言語系学会連合(UALS)事務局として、シンポジウム「日本語の将来」の実務を担当した。
- ・Journal@rchiveでの『言語研究』の公開に関する問題点について担当者と協議し、解決策を策定した。

【別記1】「日本語学会 会則」第19条の改定

(旧)

第19条

夏期講座委員長と夏期講座委員は、夏期講座委員会を構成し、日本語学会夏期講座の企画・運営を行う。

- 2 夏期講座委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は3年とする。
- 3 夏期講座委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に應ずるものとする。
- 4 夏期講座委員は、夏期講座委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

(新)

第19条(新)

夏期講座委員長と夏期講座委員は、夏期講座委員会を構成し、日本語学会夏期講座の企画・運営を行う。

- 2 夏期講座委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は2年とする。
- 3 夏期講座委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に應ずるものとする。
- 4 夏期講座委員は、夏期講座委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

(2010/11/27 改定)

【別記2】「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」に関する規程

日本語学会

(目的)

- 1 本制度は、日本語学会（以下「学会」）の会員が共同で、学会の社会貢献活動ないし教育活動の一環として以下のプロジェクトを実施することに対して、経費を助成することを目的とする。
 - a. 現在・過去・将来における人間言語の多様性に関する調査研究の成果を社会に発信するための啓蒙的プロジェクト（学会ホームページでの情報発信、シンポジウムの開催、その他の広報活動等）
 - b. 言語の多様性に関する調査研究を活性化し普及させるための教育的プロジェクト（若手研究者育成のためのセミナーの開催等）
 - c. 会員による言語の多様性に関する社会貢献・社会連携として特に重要と認められるプロジェクト

(助成金)

- 2 助成金額は、プロジェクト1件につき50万円を上限とする。
- 3 採択件数は毎年度若干件とし、助成金の総額は毎年度100万円を上限とする。
- 4 助成金の用途は以下のものに限り、他の助成金等と用途が重複してはならない。
 - a. 作業委託費（ホームページコンテンツの作成等）
 - b. 作業補助、翻訳等のための謝金
 - c. シンポジウム・セミナー等開催のための費用（講師旅費、謝金、会場費、資料印刷費等）
 - d. 会議等のための旅費・会場費
 - e. その他会長が適当と認めたもの
- 5 助成金により作成したものを公開する場合、あるいはシンポジウム・セミナー等を開催する場合は、本助成金による旨を明示しなければならない。また、プロジェクト終了後も、会員が学会ホームページを通じてプロジェクトの成果にアクセスできるようにしなければならない。

- 6 本制度の目的に反する行為、研究者としてのモラルに反する行為があった場合は、プロジェクトの実施期間中か終了後かを問わず、助成を取り消す。その場合、プロジェクトの代表者は助成金を全額返納しなければならない。

(実施期間)

- 7 プロジェクトの実施期間は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
8 同一プロジェクトを継続する場合も、年度毎に申請するものとする。

(申請条件)

- 9 プロジェクトは、複数の個人会員で組織・実施する。
10 プロジェクトの代表者は、学生会員を除く個人会員とする。代表者以外のメンバーは学生会員でもよい。
11 プロジェクトの代表者は、応募時においてその年度の会費を納入していなければならない。
12 採択されたプロジェクトの代表者およびメンバーは、助成金交付時まで実施年度の会費を納入しなければならない（会費納入を銀行自動引き落としにしている場合を除く）。

(申請から採否決定まで)

- 13 プロジェクトの代表者は、実施前年度の3月31日までに、所定の書式による申請書を学会事務局に電子メールで提出する。
14 プロジェクトの採否および助成金額は、常任委員会の審議を経て会長が決定し、その結果を評議員会で報告する。
15 プロジェクトの採否結果および助成金の決定額は、決定後すみやかに書面で代表者に通知する。
16 プロジェクトの採択に際し、計画の一部変更、あるいは他のプロジェクトとの統合を条件とすることがある。

(実績報告と評価)

- 17 プロジェクト実施期間中に会長から指示があった場合は、代表者はすみやかに活動状況ならびに会計状況を報告しなければならない。
18 プロジェクトの代表者は、実施状況を随時学会ホームページ上で報告するとともに、実施年度の3月31日までに、会長に対し活動報告書と会計報告書を提出する。
19 プロジェクトの活動内容および支出の適切性に関する評価を常任委員会が行い、会長がその結果を会計監査委員および評議員会に報告する。

(募集要項等)

- 20 本規程の実施に関わる募集要項および諸様式は、常任委員会の承認を経て、会長が定める。

(附則)

1. 本規程は2011年1月1日より施行する。

(2010/11/27 評議員会承認)

第 141 回大会

期日 2010年11月27日(土)・11月28日(日)

会場 東北大学

公開シンポジウム 11月28日(日) 13:10～16:30

「脳科学と言語学の対話」

脳を介したコミュニケーションの可能性

自己・他者の脳イメージング研究から見た言語

脳から見えてくる言語の姿とは？

司会 小野 尚之

講師 神谷 之康

講師 杉浦 元亮

指定討論者 坂本 勉

口頭発表・ワークショップ

—第1日(11月27日(土)) 13:30～17:10—

◦A会場

- | | | | |
|--------|--------|---|---|
| (1-A1) | 13:30～ | The nominative/genitive alternation in modern Inner Mongolian: a visual analogue scale (VAS) evaluation method-based analysis | Hideki MAKI
Lina BAO
Badma ODSAR
Satoru YOKOYAMA |
| (1-A2) | 14:05～ | The origin of the <i>ga/no</i> conversion in the history of the Japanese language | Asako UCHIBORI
Hideki MAKI
Yin-Ji JIN |
| (1-A3) | 14:40～ | <i>Sé fēin</i> 'he self' in modern Ulster Irish | Dónall P. Ó BAOILL
Hideki MAKI |
| (1-A4) | 15:30～ | The syntactic structure of dvandva V-V compounds in Chinese | Fumikazu NIINUMA
Chao ZHANG |
| (1-A5) | 16:05～ | 英語における <i>Wh</i> 主語構文—コピー理論に基づく空移動仮説再考とその帰結— | 三上 傑 |
| (1-A6) | 16:40～ | 不活性条件と主要部移動の Excorporation 分析 | 江頭 浩樹
外池 滋生 |

◦B会場

- | | | | |
|--------|--------|---|----------------|
| (1-B1) | 13:30～ | 主要部内在型関係節とフォーカス要素について—格助詞決定詞分析の観点から— | 高橋 洋平 |
| (1-B2) | 14:05～ | 取り立て詞とフォーカス | 林下 淳一 |
| (1-B3) | 14:40～ | 日本語の左方転移構文と無助詞名詞句—情報構造理論的考察— | 山泉 実 |
| (1-B4) | 15:30～ | 内在格とその具現条件— <i>there</i> 構文を中心に— | 一田小友希 |
| (1-B5) | 16:05～ | 複合動詞の自他交替と他動性調和に関する統語論的—考察—「V上がる」と「V上げる」を中心に— | 小川 芳樹
新沼 史和 |
| (1-B6) | 16:40～ | 日・英語における比較節の派生と左枝分かれ構造からの抜き出しについて | 稲田俊一郎 |

◦C会場

- | | | | |
|--------|--------|------------------------------------|----------------|
| (1-C1) | 13:30～ | いわゆるタ形語尾の形態論的範疇について | 大島デイヴィッド義和 |
| (1-C2) | 14:05～ | 「動詞+テイル」は本当に〈結果状態〉を表すか？「テイル—義説」の提案 | 都築 鉄平 |
| (1-C3) | 14:40～ | 「のだ」文の構造と機能 | 五十嵐啓太 |
| (1-C4) | 15:30～ | Wh 付加詞構文の特性 | 山寺 由起 |
| (1-C5) | 16:05～ | 名詞化構文に現れる「が・の」交替に関して | 赤楚 治之
原口 智子 |

(1-C6)	16:40～	「VN ダ」文の機能—「VN スル」文との比較を通して—	久保田一充
◦D 会場			
(1-D1)	13:30～	日本語における Event Cancellation について	石井 創 西前 明 大羽 良 石川 潔 宮崎 千明
(1-D2)	14:05～	トートロジの解釈メカニズムにおける文脈の役割について	宮崎 千明
(1-D3)	14:40～	ケド中断節構文による「主観性・主観化」及び「間主観性・間主観化」について—文法化と構文理論の観点から—	蔡 明杰
(1-D4)	15:30～	動作主目的語と対象主語の具現化現象について	于 一樂
(1-D5)	16:05～	中国語 <i>Dou</i> と Scalar 解釈	毛利 史生 鄭 磊 福田 翔
(1-D6)	16:40～	中国語における証拠性モダリティ—可能補語 不了 (<i>-bu liao</i>) について—	福田 翔
◦E 会場			
(1-E1)	13:30～	上海語窄用式変調の音響音声学的記述	高橋 康德
(1-E2)	14:05～	日本語の半母音と母音の共起制限—調音及び知覚音声学的説明—	田中 雄
(1-E3)	14:40～	オノマトベの象徴は普遍的か—日本語母語話者による韓国語オノマトベの判断—	崔 絢喆 黒沢 晶子
(1-E4)	15:30～	ガナン語における低声調について	藤原 敬介
(1-E5)	16:05～	エウエン語の音素配列	鍛冶 広真
◦F 会場			
(1-F1)	13:30～	日本語と朝鮮語の談話における「中途終了発話文」の出現とその機能	高木 丈也
(1-F2)	14:05～	韓国語漢字語の <i>-bada</i> 付加による動詞および形容詞化の動作性アスペクトによる予測	パクソンジュ 玉岡賀津雄 李 在鎬
(1-F3)	14:40～	事象関連電位に観る敬語規則—尊敬語と謙讓語—	宮岡 弥生 時本 真吾
(1-F4)	15:30～	英語における主格・対格・属格処理の脳内メカニズム	横山 悟 牧 秀樹 橋本 洋輔 當真 正裕 杉山 朗子 川島 隆太
(1-F5)	16:05～	否定呼応違反に関する事象関連電位について—シカナイ構文の検討—	備瀬 優 坂本 勉
(1-F6)	16:40～	副詞 <i>イツタイ</i> を伴う <i>Wh</i> 疑問文の処理と文脈の効果	小野 創 酒井 弘

◦ G 会場

(1-G1)	13:30～	北琉球奄美湯湾方言における準体助詞 <i>si</i> の形態統語的振る舞いについて	新永 悠人 下地 理則
(1-G2)	14:05～	西夏語の遠称指示代名詞の使い分けについて	荒川慎太郎
(1-G3)	14:40～	スワヒリ語における「外の関係」の関係節	米田 信子
(1-G4)	15:30～	モンゴル語の「後置詞」の特徴	梅谷 博之
(1-G5)	16:05～	アイヌ語動詞の項同定制限—再帰接頭辞を中心に—	小林 美紀
(1-G6)	16:40～	南琉球八重山波照間方言の「形容詞」認定に関する問題	麻生 玲子

—第2日 (11月28日 (日)) 10:00～11:40—

◦ A 会場

(2-A1)	10:00～	ミニマリスト・プログラムに基づく日英語の副詞の分析	水野江依子
(2-A2)	10:35～	独立再帰形の特性と認可条件	永次 健人
(2-A3)	11:10～	拡大投射原理の二重性	大澤 聡子

◦ B 会場

(2-B1)	10:00～	古英語における限定詞のパラダイム—最適性理論による分析—	中村 渉
(2-B2)	10:35～	Wh 構文の解釈と韻律構造—佐賀方言と東京方言の対照より—	西垣内泰介 日高 俊夫
(2-B3)	11:10～	日本語の再帰代名詞の長距離束縛の阻害効果に関する一考察	原田なをみ

◦ C 会場

(2-C1)	10:00～	複合動詞「引き～」の意味の不透明性に関する一考察	史 春花
(2-C2)	10:35～	明示的な特徴に基づく多義の分析—北海道方言を例に—	山口 和彦 円山 拓子
(2-C3)	11:10～	韓国語と日本語東北方言の〈推量〉の表現について	高田 祥司

◦ D 会場

(2-D1)	10:00～	差の解釈と英語の度量句の分布について	田中 英里
(2-D2)	10:35～	<i>XP away from V-ing</i> という構文について	松山 哲也

◦ E 会場

(2-E)	ワークショップ 1 (10:00～)		
		「語順と機能範疇」	司会 遠藤 喜雄
		カートグラフィープロジェクトの概要と論点 (アスペクトと複合語)	遠藤 喜雄
		自由語順 (Free word order)	井上 和子
		文の情報伝達の意味とイントネーション	森山 卓郎
		The perils of Cartography	Cedric BOECKX
		Word order typology: A change of perspective	Guglielmo CINQUE

◦ F 会場

(2-F)	ワークショップ 2 (10:00～)		
		“Segmental variation in Japanese”	Tetsuo NISHIHARA
			Jeroen VAN DE WEIJER

		Vowel devoicing in Japanese and postlexical alternability of syllable structure	Manami HIRAYAMA
		On the relationship between <i>rendaku</i> and accent	Satoshi OHTA
		The morphology-prosody interaction for the syllable deletion in the Hokkaido dialect of Japanese	Kan SASAKI
◦ G 会場			
(2-G1)	10:00～	Case Markers and Adpositions in Japanese-Chinese Code Switching	Hairong MENG Tadao MIYAMOTO
(2-G2)	10:35～	アミ語における書き言葉の影響	今西 一太
(2-G3)	11:10～	アラビア語チュニス方言のモダリティを表す小辞	熊切 拓
ポスター発表 11月28日(日) 12:00～13:00			
(2-P1)		日本語並立助詞「や」の語用論的解釈と翻訳可能性	川口 裕子
(2-P2)		満洲語の黒を表す2つの色彩語	早田 清冷

◇退 会

国内通常會員	3名
海外通常會員	1名
国内学生会員	4名